



かりの光昭 活動ニュース

7月号外

住所：いわき市石森2丁目2-11 携帯：090-7564-3253
TEL 0246-38-8105 FAX 0246-38-8106
E-mail karino@karino-m..jp HP http://karino-m..jp

福島第一原発 深刻な廃炉に向けた作業

6月30日「震災と放射能汚染後をどう生きるのか」
ふくしまフォーラムの集会に参加しました。

現在、福島第一原発事故の収束に向け、高い放射線
量のもとで多くの労働者が従事しています。

したがって、法定被ばく限度である100ミリSvを
超える労働者が多くなり、廃炉まで30年~40年間かかるので、労働者不足が予測されます。

【放射線業務従事者の法定被ばく限度】

男性：1年間最大50ミリSv

5年間で100ミリSv

女性：3ヶ月で5ミリSv

心配されるヨウ素131 3月15日の行動記録を残そう

午後からは、分科会で石丸小四郎さんが「原発事故の現状と課題」の報告を行いました。

原発過酷事故から1年3ヶ月、今も福島県民16万人が難民生活を送り、慣れない土地、狭い住居、家族離散、将来不安により心身共に疲へいた人々の自殺、事故死、孤独死が後を絶ちません。しかも、県土の3分の2が放射線管理区域以上（文部科学省モニタリング調査結果）の放射能が沈着しているなかで生活を余儀なくされています。皆さん、事故から4日後の、3月15日にいわき市県合同庁舎の放射線量が急上昇していたことをお分かりでしょうか？毎時23.72マイクロシーベルト計測されていました。その原因は福島原発から34万テラベクレル（テラ=1兆倍）の莫大な放射線が放出されていたからです。それが15日未明の北風に乗り南下。いわき市から茨城県、千葉県へと濃密な放射能が流れ落ちました。それが右下の資料です。

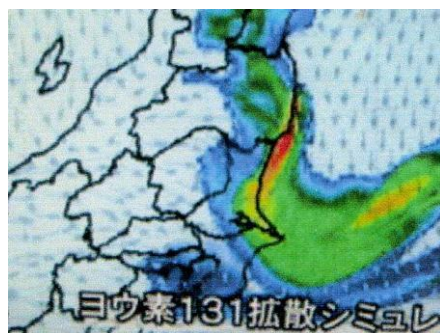


福島のことを報告する石丸さん

この頃、いわき市では地震による断水のため子どもを含め多くの人達が給水を受けていたのです。

15日の正午頃には南南東の風が変わり、今度は時計回りに北上し中通り地方に流れました。

私たちは「今年の3月15日前後の行動記録を残そう」と市民のみなさんに呼びかけています。多量に流れ込んだヨウ素131という放射性物質は半減期8日なので今は跡形もなく消えています。このままでは東電と国の完全犯罪を許してしまう恐れがあるからです。石丸さんは以上のような現状報告を行いました。これらの問題をもっと詳しく知りたい人はご連絡下さい。



3月15日のヨウ素131の流れ

【NHK ETV特集より】